



〒892-0841
鹿児島市照国町13-42
カトリック鹿児島教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間〒共1100円

道 標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

ユスト高山右近を列福

鹿児島でもカテドラルで感謝のミサ

昨年1月、教皇フランシスコによって殉教者としての列福が承認されていた「キリシタン大名・ユスト高山右近」の列福ミサが2月7日（火）大阪城ホールでささげられた。ミサには鹿児島からも多くの参加者があつたほか、教区内の幾つかの教会ではインターネットでライブ配信されたミサの様子を集まった信者で一緒に視聴するなど、喜びを共にする工夫がされた。また2月11日（土）にはザビエル教会で郡山司教司式の「列福感謝ミサ」がささげられた。

ユスト高山右近

1552年（天文21）摂津国清溪村高山（現在の大阪府豊能町）に生まれた右近は1563年、父飛騨守友照の影響で受洗した（洗礼名ユスト）。1573年（元亀4）には若くして高槻城主となり、その後も武功を挙げると、将来は明るいものと思われていた。しかし、キリスト教に対する政策の大転換により、大

名としては失落の人生を送ることになった。領地を没収され、追放となった右近は、秀吉の命令で前田家預かりとなり金沢へ。そこで20数年間を送ることになる。その間に右近は、宣教師、信徒たちを保護し教会を建設するなど礎を確固たるものとしていった。しかし徳川幕府によりキリシタン禁令が發布されると、右近一家は前田家のことを考

列福ミサ

2月7日、大阪城ホールでささげられた列福ミサは教皇代理のアンジエロ・アマート枢機卿（列聖省長官）が主司式した。また高山右近が帰天したフィリピン



ンからマニラ大司教のルイス・アントニオ・タグレ枢機卿も司教30人、司祭300人と共に1万にあまりの信者が詰めかけたミサの司式に加わった。

ミサはラテン語と日本語を中心に進められたが、信徒も唱える祈りの部分は英語、タガログ語、韓国語、ベトナム語も取り入れら

建設に向けて検討

第1回納骨堂委員会

2月19日（日）、教区本部で唐湊墓地に納骨堂を建設するための最初の委員会

のためにはわたしたちの日々の生活の質の見直し、改善する必要を学んだ。

メキシコシティ生まれのイグナシオ師は長身、温厚な人柄でパソコンを用いて分かりやすく説明してくれ

た。「もう一人のキリスト」とは「キリストの真似をするのではなく、自分の中にキリストが現存する喜びを実感すること」、

「司牧者は神のいつくしみを自分の生き方の基本にすること」と言われたが、師自身がそれを生きているこ

とが伝わってきた。

「カトリック北薩信徒大会」のお知らせ

日時…5月21日（日）午後12時30分から受付開始

（午後4時まで）

場所…大口明光学園（体育館）

テーマ…「いのり」主よ、わたしたちにも祈りを教えてください。」

講師…ホセ・デルコス先生（ラ・サール学園理事長）

*なお、ミサの中では堅信式も行われます。

聖霊による

生活刷新セミナー

聖霊について学びませんか
指導…フランシス・マツケイ神父（聖コロンバン会）

テーマ…「約束された命」
日時…5月10日から毎週水曜日（計8回）。午前10時～正午

場所…ザビエル教会
参加費…自由献金
テキスト…聖霊による刷新事務所ヒスロ発行「新生への門出」（500円）。セミナー開催中に販売

主催…聖霊による生活刷新セミナー奉仕グループ（協力 末吉神父）
※教区報2月号でお知らせした内容に変更があった。始まりが3週間遅くなり、場所も教区本部からザビエル教会となった。

教区人事

▼末吉卓也神父（始良及び溝辺教会主任・書記長）は、教区本部付き

▼朴鎮亮神父（始良教会助任）は、加世田教会主任

▼アン神父（ザビエル教会助任）は、始良及び溝辺教会主任

▼朴利奎神父（ザビエル教会助任）は、始良及び溝辺教会助任

▼寝占敦之神父（指宿教会主任）は、志布志教会主任

祈りと償いの日制定 性虐待被害者のため

昨年、教皇フランシスコから、全世界の司教団に向けて「性被害者のための祈りと償いの日」を設けるようにとの通達が出された。日本の司教団はこれにこたえるため、昨年12月に出したメッセージの中で、四旬節第二金曜日をこの日に設定すると発表した。今年は3月17日。

教皇の主な意向は、教会のメンバーによって行われた子どもへの性虐待の罪について、神の赦しを願うこと、教会の権威者が加害者を公表せず、被害者の痛みを無視した罪の赦しを願うこと、被害者とその家族のために神の癒しと支えを願う、教会が和解の歩みに有効に寄り添うことができるように祈ること、被害者から何らかの反応があつた場合、特別な司牧的配慮をもつてすぐにこたえるようにすること、などである。日本でも司教団が2002年に調査したところ同様の事件があることが分かり、取り組みを始め、現在この問題に対応するための部署や対応マニュアルなどが出されている。

主任は、志布志教会主任（志布志教会主任）は、

▼ベルナルディーノ神父（指宿教会主任）は、

▼ステイブ神父（加世田教会主任）は、鹿屋教会主任

▼宋診旭神父（鹿屋教会主任）は、瀬留教会主任

▼貴島丈弥神父（聖心教会助任）は、ザビエル教会助任

※着任は復活祭後。但し幼稚園関係者は、4月1日付け。

回勅「ラウダート・シ」を学ぶ

今年の鹿児島教区司祭大会

1月23日（月）から26日（木）まで、指宿市の「指宿ロイヤルホテル」で毎年恒例の教区で働く全司祭を対象とする司祭大会が開かれ、郡山司教をはじめ教区内から30人の司祭、終身助祭が参加した。

月曜夕方から水曜日までは研修会。テーマは「現代社会の中で奉仕する司祭に対する回勅『ラウダート・シ』からの問いかけ」。講師は、グアダルーペ宣教会司祭で、現在、中央協議会社会司教委員会秘書を務めるイグナシオ・マルチネス・バエズ師（54歳）。

昨年夏に翻訳された教皇フランシスコの回勅『ラウダート・シ』は、地球規模の環境悪化に直面している今、人類は何をしなければならぬかを述べたもので

ある。司祭が宣教・司牧の現場でこの回勅をどのような実践するかという問題意識のもとに研修を企画した。

4回の講話では、現代の司祭に求められる心や実践すべきこと、現教皇の紹介、エコロジーは生命体とその生育環境との関わりを研究するが、これには環境的、経済的なものだけでなく文化的、日常的なものであること、などが取り上げられた。貧しくされている人々の尊厳の回復と自然保護は関係していること、そ

神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて

(6)

2月27日（土）相生―上郡：約20 km

午前7時30分、ミサ。昨晩まで、あずかるつもりはなかった。起床して気が変わった。今日も明日も教会のない場所に行く。明日が日曜日だからというのもある。だが何より、力づけられた明石での体験が大きい。

ポーランド人のシスター四人とあずかるこぢんまりとしたミサ。その親密感が好ましい。家庭的な団居に励まされる。

明石神父は話し好き。喋り出したら止まらない。それでいて、心配りの細やかな人である。話しながらも中途、「お茶は？」「風呂は？」「洗濯は？」と気遣う。僕は心中、恐縮するばかり。「友、遠方より来たる」と何度も、僕の訪問を喜んでくれるすがたに、感謝の念も一入である。

きのう、本来なら有年までが経路であったが、宿がないため、また足が保たず相生までとした。経路上、二十六聖人が次に足を止め



船坂峠 県境

たのは片上であるが、相生から30〜40 kmはある。また今日、午後から夜にかけて雨との予報。いまの僕の足では、ちと厳しい。上郡なら宿があると聞いた。経路からは外れるが、有年を越え北上、上郡まで歩いた。幸い、雨雲より早く上郡に。大事を取って、観光案内所で宿の手配を願う。そこで働くご婦人二人がとても親切。片上での宿まで、管轄でもないのに、知人に尋ねるなど、手を尽くして探してくれた。

「京都から歩いてきたんやて。まだ長崎まで歩くそうや。応援してあげたいんや、頼むわ」。電話での交渉を小耳にはさみ、平身低頭。感謝の言葉もない。

2月28日（日）上郡―片上：約25 km

午前8時30分、上郡を発つ。県道5号線を南下。山野里と呼ばれる山地を、廻り込みつつ越えるような按配。登り坂が続く。かつて梨ヶ原、三石を抜け片上に向かう道は、山陽道一の難所と呼ばれたという。本来、国道2号線の南を廻り船坂峠へと至る船橋峠越えが旧道だが、いまは道がなく危険とのこと。国道に沿う旧道を行う。

途中、国指定史跡「山陽道野磨驛家跡Ⅱ」やまやあとⅡ」の傍らを過ぎる。驛家とは古代、官道沿いに約16 km間隔で設けられていた中継施設。山陽道は唯一の大路として重視され、ここには瓦葺き白壁の驛家が

整備されていたという。

この驛家、当時はなかに名が知れていた。平安時代末期の説話集「今昔物語集」の巻第十四の十七話「金峰山の僧転乗法花を持して前世を知る語」。

転乗という僧がいた。法華経を日夜読誦。六巻まで暗誦した。が、七・八巻がまるで覚えられない。夏の三カ月、御堂に籠って祈請。夢を見た。

天人が出現、「お前は前世、播磨国赤穂郡の驛家に棲む三尋半もの毒蛇であった。宿泊した一人の聖人を

食い殺そうとしたが、かれの誦す法華経を耳にし心をあらためた。夜が明け、聖人は法華経を六巻までとし、七・八巻を読まずに去った。ゆえに今生、お前は七・八巻を暗誦できない。だが、一心に法華経を唱えよ。後生では生死の苦を離れることができる」と告げた。

以後、転乗はいよいよ熱心に法華経を読誦。尊い生

（文芸）

俳句

鹿兒島純心 川上 和
庭先の一輪の小枝に舞う雀

吉野教会 徳永ノブ子
恙なく神に感謝の浅き春

日の光浴びて窓辺の日向ぼこ
パンジーの小さく揺れる
し神の愛

を全うしたという。
原文は「幡磨ノ國、赤穂ノ郡ノ山驛」と記す。いまもここに「落地」と書いて「おろち」と読む地名が遺存。遺跡の信憑を証している。

あるいは「枕草子」に、「むまやは梨原。ひぐれのむまや。つきのむまや。のぐちのむまや。山のむまや、あはれる事を聞きおきたりしに、またあはれる事のありしかば、なほ取りあつめてあはれなり」とある（二三三段）。

この「山のむまや」がここ、「野磨驛家」。「あはれる事」とは僧、転乗の逸話とされる。また後段の

国分教会 政ノブ子
堅信式優しき愛の司教様
雪ならずバケツに氷キラキラと

教会のひょうたん池に初氷

短歌

鹿兒島純心 川上 和
如月の高札の嵐吹きまくり
血染めの証し西坂に刻む

「あはれる事」とは、清少納言の仕えた中宮定子の兄、政争に敗れた藤原伊周の大宰府への配流を指すとされる。そのとき、病いを得た伊周は野磨驛家にとどめ置かれたという。

船坂峠は県境。峠を越えろと、岡山県だ。
兄坂から八木山にかけて、山陽自動車道と国道2号線が交差するあたり、歩道があつたりなかったり、旧道も把握しにくい。四軒屋からの旧道も、伊里中付近が分かりづらく途中、畦を渡る始末。

山陽新幹線の高架をくぐる。集落を下ると、片上だった。（続く）

+KABAYAN SEKSYON+

Bakit Dumalaw si Papa Francisco sa Pilipinas?

Nang maglakbay si Papa Francisco mula sa Sri Lanka patungo sa Pilipinas noong Enero 15, 2015, tinanong siya ni Pia, isang Pilipina, kung ano ang kanyang pangunahing mensahe para sa bayan, pati na rin sa mga taong hindi niya makakasalamuha ng harapan.

Tumugon si Papa Francisco: “Sa pagsagot kong ito, maaaring tingnan ako na ubod ng simple, ngunit may isang bagay akong sasabihin. Ang sentro, ang puso ng aking mensahe, ay ang mga dukha. Ang mga dukha na naghahangad umasenso, ang mga dukha na nagdusa dahil sa bagyong Yolanda at patuloy na dumaranas ng mga epekto nito, ang mga dukha na may pananampalataya at pag-asa sa paggunita ng ika-500 taon ng pangangaral ng Ebanghelyo sa Pilipinas, ang Bayan ng Diyos sa Pilipinas.”

“Ang mga dukha, kabilang ang mga dukhang pinagsasamantalahan ng mga namamayagpag sa pagpaptuloy ng maraming kawalang-katarungan sa lipunan, sa buhay-espirituwal at sa araw-araw na pamumuhay. Iniisip ko sila. Sa pagtungo natin sa Pilipinas, iniisip ko sila...ang mga dukha...sila ang magiging puso.”

Walang dudang hindi tayo binigo ni Papa Francisco! Ibinahagi niya sa atin ang maraming bunga ng kanyang paghinayayag sa mga dukha, ang mga dukha ng Diyos.

Sa ating kapaligiran ay marami pa rin mga dukha, na hindi lamang salat sa bagay na materyal bagkus sa buhay-espirituwal. Maraming mga dukha na sila man ay mga bininyagan subalit hindi nagagampanan ang pagiging isang kristiyano, hindi nagagampanan ang pagsaksi sa buhay na si Hesuskristo ay buhay. Kaya ang simbahan ay hindi tumitigil na ipinapahayag at pinapangaral ang mga salita ng Diyos sa mga dukha, para sila din ay maging mulat sa buhay pananampalataya.

Maraming mga may kaya sa buhay subalit hindi rin nararanasan ang makihalubilo sa mga kapatid na salat sa bagay na materyal, mga kapatid na dukha, kaya ito rin ang isa pang bagay na dapat mabigyan na pansin, na sana ang may kaya ay maging daan din sa mga kapatid na dukha na makaranas din ng kanilang pagkilala at pagkalinga. Diyan magiging buhay ang paghahari ng Diyos sa lahat, lalung-lalo na sa mga dukha.

Katekismo sa Taon ng mga Dukha (Fr.Dino Orolfo)

カトリック通信講座「キリスト教」とは

すべての人の救い主イエス・キリストの教えと生涯を中心に、日本の文化や宗教観に照らしながらキリスト教の概要をわかりやすく解説します。信仰体験などのコラムも充実しております。初めてキリスト教に触れる方にもおすすめです。詳細は当研究所ホームページをご参照ください。URL：http://www.oriens.or.jp



＜お申込み＞

郵便局より、振り込み用紙の通信欄に「キリスト教とは」とご明記のうえ、受講料（4800円）をお振り込みください。
振替口座番号：00170-2-84745 加入者名：オリエンス宗教研究所
入金確認後、教材（テキスト・解答はがき）をお送りします。

＜お問い合わせ＞

オリエンス宗教研究所「カトリック通信講座」

Tel：03-3322-7601
Fax：03-3325-5322

子どもたちとともに主日の福音を「こじか」2017年度のご案内



こどもたちに福音を味わう1週間を

わかりやすいと好評の主日の福音解説を中心に、多彩な記事でイエスさまのまなざしを伝える「こじか」。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしてもご好評いただいています。

- ・毎週日曜日発行（年44週）B5判・16頁（ふりがなつき）
 - ・定価65円+税（送料別）＊15部以上のご注文は55円+税
 - ・国内年間定期購読1部4100円／2部7400円（税・送料込、2部の価格は同じ発送先の場合）
- ※お申し込み、お問い合わせ、見本誌請求は下記にどうぞ！

オリエンス宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel：03-3322-7601 Fax：03-3325-5322
URL：http://www.oriens.or.jp

大きな恵みヴィアンネ助祭誕生

―韓国での叙階式に参列して―

聖心教会助任司祭 貴島 丈 弥

鹿児島教区のヴィアンネ李秉徳（イ・ビョン・ドク）神学生が1月6日（金）韓国は仁川教区であった「司祭・助祭叙階式」で、助祭に上げられた。式には鹿児島からもアントニオ鄭法鐘（チョン・ポフ・チョン）神父ら数人が参列し、日本とは一味違う荘厳な雰囲気味わい、また新しい助祭の誕生を祝った。教区報では叙階式に参列した貴島丈弥神父（聖心教会助任）に参列した感想を記してもらった。

1月6日（金）にインチョン教区で行われた司祭・助祭叙階式に参加させてもらいました。年始ということもあり、日本からの巡礼団は多くありませんでしたが、それぞれ大きな恵みを頂いて帰って来たと思います。一つの教区で18人の司祭、14人の助祭の誕生というのはカトリック国のフイリピンでも経験することはありませんでした。若い受階者それぞれの表情にそれぞれの道のり、思いを感じることができ、自分のことも振り返っていました。

わたしたちがまず頂いた「大きな」恵みはもちろんヴィアンネ助祭、さらに大きくなっていました。受階者が呼び出される時も一番大きな「はい」が広い会場に響き渡りました。そして、ヴィアンネ助祭を育ててくれたお母さんの、そして、家族のたくさんの愛情もわたしたちは頂くことができました。

助祭の実家に招いて頂いた時も食べきれないくらいのデザート、そして、帰る



李秉徳助祭

W・キッペス神父の黙想会 案内

「忙中閑あり」 しばし内面を見つめましょう
3月10日（金）18時～12日（日）16時30分
場 所：マリア山荘（霧島市溝辺町3616-4）
参加費：15,000円（宿泊代・食事代込み）
※どなたでも。1日、2日だけの参加可。
申 込：高浜昌信
TEL099（274）9709 携帯090（9078）0077

日の朝も食べきれないほどの朝ご飯を準備してくれていました。こういうもてなしをできる方のことを「ビッグハンド」と呼ぶそうです。大きな手によって導きつと大きな愛をもって導いてくれる神父さんになつてくれると思います。

告白場を考える

司教執務室便り



数年前鹿児島にも来られたインチョン教区の未来司牧研究所のチャ神父様から毎月英語版の機関誌が届く。表紙を飾るのは、スタッフからインタビューを受けた神父様ということになっている。今回は、「邪悪な時代の善き牧者」というテーマのもとに、昨年のいくつかの大きな年で「いつくしみの宣教師」に任命されたクー・ヨブ神父様。五〇代後半かと思われる神父様の宣教師となるにあたって心がけたことは、「告白室が信者たちにとって小さくつろぎの場になること」だったという。あの窮屈な部屋がくつろぎの場などという発想はしたことがないので驚いた。

の部屋がくつろぎの場どころか、判決を受ける場になってしまいかねない。だから、やっぱり告白の方がいいに決まっているのだが、かなりの緊張の場であることには変わりはない。

種子島教会に告白部屋はない。昨年のクリスマス前のミニ黙想会で赦しの秘跡に使用したのは集会室。ソファアにかけて待っている三々五々、信者たちがやってきて腰を下ろす。十字架のしるしと招きの言葉、そして告白。そこまでは同じだが、あとはまるで違う。まず、罪を述べ立てて「以上です」というパターンではなく、全く普段の口調で胸の内を語るといふ雰囲気なのだ。さとしの時間も顔を上げ、「なるほどそうですね」と合意の手が入ったり、質問があったりとまるで対話。退室時には、明るい声で「ありがとうございました。」こんなにもリラックスした雰囲気の告白は初めてのように思う。

三月一日は灰の水曜日。狭い告白部屋ではなく応接室かどこかで、オープンな雰囲気での告白は教会学校の子供だけでなく、大人にもおすすすめだ。四旬節の過ごし方も違わず。ともあれ、いい準備ができて主の復活と共にそれぞれの復活を喜びの内に祝うことができるよう祈りたい。

「短 信」

様との対話が始まりました。「はい、韓国の人たちを大切にします。」といったようなことです。この韓国の霊性を日本でも開花して力を合わせてともに宣教・司牧できるよう願っています。

李秉徳助祭 略歴
1975年1月5日生まれ（42歳）。富川北高等学校卒業後、忠南大学に進学し社会学を専攻。卒業後は2年間の兵役で陸軍に所属した。除隊後は社会人として働いた後、修道会に入会し有期誓願を宣立し、その後、司祭職を目指して退会。2012年からは鹿児島教区の神学生として仁川カトリック大学で学んでいる。趣味はスポーツ観戦と山登り、ラゲビー。

▼鴨池教会で堅信式
1月15日（日）鴨池教会で堅信式があり、小・中学生6人と大人7人の計13人が郡山司教から大人の信者となる恵みを受けた。ミサ後は、茶話会も開かれた。

▼国分教会で堅信式
2月12日（日）国分教会で堅信式があった。この日、郡山司教から受堅したのは、小学生1人と中学生6人、大人1人の合計8人。教会では茶話会を開くなど喜びの1日となった。

▼キリスト教一致集会
1月22日（日）午後2時から、プロテスタントの兄弟たちとキリスト教の一致を共に祈る祈禱集いが谷山教会であった。

会と催し（3月）

- 1日（水）灰の水曜日（大斎・小斎）（四旬節愛の献金Ⅱ 四旬節中）
- 2日（木）聖体礼拝・カテドラル・6時30分
- 5日（日）四旬節第1主日
- 12日（日）四旬節第2主日
- ▼田代竜也神学生司祭助祭候補者認定式・カテドラル・9時
- 17日（金）日本の信徒発見の聖母
- ▼田原章神父叙階記念（1953年）
- ▼関根悦雄神父叙階記念（1984年）
- ▼坂本進神父叙階記念（1984年）
- 19日（日）四旬節第3主日
- ▼成相明人神父叙階記念（1967年）
- ▼丸野六雄神父叙階記念（1977年）
- 20日（月）聖ヨセフ
- ▼郡山健次郎司教司祭叙階記念（1972年）
- ▼永山幸弘神父叙階記念（1968年）
- ▼寝占敦之神父叙階記念（1983年）
- ▼鄭法鐘神父叙階記念（2013年）
- ▼宋診旭神父叙階記念（2013年）
- ▼牧山田一神父霊名
- ▼栃尾泰英神父霊名
- ▼ムイベルガ神父霊名
- ▼タム神父霊名
- 21日（火）教区巡礼委員会・教区本部・19時
- ▼小隈憲士神父叙階記念（1988年）
- ▼頭島光神父叙階記念（1987年）
- ▼大松正弘神父叙階記念（1987年）
- ▼末吉卓也神父叙階記念（2003年）
- ▼山口好信神父叙階記念（1991年）
- 24日（金）神のお告げ
- ▼泉浩二神父叙階記念（1993年）
- 26日（日）四旬節第4主日
- ▼ル・9時 神学生朗読奉仕者選任式・カテドラル
- ▼オリーブの会・教区本部・14時
- 27日（月）ユースカトリックキャンプ・日向学院「海の家」（日南市）・30日まで
- 28日（火）田邊徹神父叙階記念（1951年）
- 29日（水）内野洋平神父叙階記念（2003年）

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
福音宣教・迫害されているキリスト者たちへの支援
日本の教会・原発事故の記憶を保つ

ザビエル書院からお知らせ
3月30日、31日は棚卸のため休業いたします。ご了承ください。

聖心教会聖堂修復への恵みと信仰の絆

小さく貧しい祈りの集いメンバー 森 島 実 江

2016年、王であるキリストの祭日で「神のいつくしみの特別聖年」も閉幕いたしました。聖心教会のクリスマスミサは、隣接する名瀬カトリックセンター3階であり、たくさんの方が集まって声高らかに天まで届くような祈りがささげられました。私にとつてこの年のクリスマスは聖堂改修に伴い、これまでになく幼子イエスさまを深く味わう特別なものとなりました。

。誤謬もありましたけど、出来事の一つで信仰共同体、家族としての内輪の探め事を外部に報道したことは、同じ信仰者として「ここまでするの！」と信じられませんでした。私には到底できません。カトリック教会という名のもとに大変ショックを受け、精神的に落ち込みました。

このような度重なる出来事を持ち越えるために、たくさん祈りが必要だったのです。事が起こる度に「イエスさま、助けてください。急いで来てください」と何度訴え、涙を流し祈ったことでしょうか。その度にイエスさまは、祈りのうちに、ミサ中にこたえてくださり、傷ついた心を癒し、立ち直らせてくださいました。また、必要な時に必要な人を遣わし、乗り越える勇氣・知恵・知識・必要な恵みを与えてくださいました。主イエスさまの計らいに心から感謝しております。

貧しい馬小屋で生まれ、飼葉桶に寝かされた幼子イエスさまは、飾ることなくこの世の富を捨てて何も持たない貧しい姿でした。ここに「神の家・聖堂は、祈りの家・沈黙のうちに祈る場、憩いの場であり、この世の名譽、文化財ではない」と深く味わうことができました。すべてにおいて、そして靈的にも貧しい私は、幼子のように謙虚さ、従順さが大事であると反省させられたことは大きな恵みでした。

ちょうど1年前の教区報3月号に「聖心教会聖堂修復への思いと思わぬ恵み」のタイトルで掲載させていただいた記事で「聖堂改修のためにたくさん祈りが必要ですよ」と導かれたこと、その時私は「大修復なので、たくさん祈りが必要なのだろう」と思うだけで、深く考えていませんでした。しかし、主イエスさまは、その以前からすべてをご存じだったのです。いろんなことが起きることを

（工式）を無事終え、工事着工となりました。完成予定は7月になります。たくさんのお祈りと時が必要であったことを改めて知り、気づきの恵みに感謝しております。これまで多くの苦しみもありましたけれど、その倍、恵みもいただきました。聖堂改修は、私にとつて大きな恵みでした。また趣意書を通して鹿児島教区の信徒の皆様をはじめ海外あるいは日本各地からの寄付金、お祈り、励ましのメッセージをいただく度に、勇氣と元気をいただきました、靈

的兄弟姉妹との信仰の絆の深さ、広さ、強さを感じました。また名のない寄付金、目に見えないお祈りにいかに支えられているかも強く実感いたしました。私たち一人ひとりが主イエスさまを中心にしなから、信仰者として目に見えない信仰の絆、祈りの連携を大切にし、また宝として靈的に成長し、築いていけたら素晴らしい靈的家族ができると思います。私たちの信仰生活も山あり谷ありです。信仰の道を祈りのうちに共に歩んでいきましよう。

信徒の皆様がたくさんのお祈り、寄付金に心から感謝いたします。これからもお祈りと献金が一致して聖堂改修が無事終わりますようにと心からのお祈りをよ

ろしくお願いいたします。ここに聖心教会信徒一同で唱えている祈りをご紹介します。させていただきます。

聖堂改修のための祈り
愛である神よ、
あなたは希望による救いのために御子を頭として教会を建てられました。わたしたちは、信仰を受け継ぎ、伝えていくという御子との約束を果たすために聖心教会改修に取り組んでいます。

わたしたちが一つの心で歩んでいくことができるように、あなたの霊によって導いてください。
主イエス・キリストの御名によつて祈ります。
アーメン。



種子島で生きる父



榕城小学校

6年 道下文哉

ぼくの父、道下浩一は鹿屋の出身です。種子島に来て26年たちました。母と、高校一年の兄、中学一年の姉、そして、ぼく。5人家族です。

父は10万人に一人という難病にかかれています。病名は筋萎縮性側索硬化症。一般的にはALSと呼ばれ、次第に筋肉がおとろえていき、やがて、自分で呼吸ができなくなってしまう病氣です。

元気なころの父は、自動

車整備の仕事をしていました。野球が大好きで、兄やぼくとキャッチボールをしたり、ソフトボールスポーツ少年団の指導をしてくれたりしていました。

「何か、体に力が入らない。病気の始まりは、そこからでした。鹿児島市の南風病院で診断されてから、約4年がたちました。だんだんと体の自由がきかなくなり、以前は、家の中では壁をつたって歩いていたのに、今では、首まで支える形の車いすでなければ移動できません。たくさん薬を飲み、検査入院をくりかえしながら、父はがんばって生きています。

父はぼくの前で弱音をほくことはありませんが、ときどきさびしそうにしています。きつと、心の中ではぼくにも分からないような苦しさや戦っているのだと思います。そんな父が、ぼ

くたちのためにも「生きる」選択をしてくれました。栄養を十分に取れるようにするための胃ろうの手術と、咽頭分離手術を受けることを決断したのです。これには、中野玄三さんとの出会いが大きく関係しています。

佐賀県に住んでいる玄三さんとはフェイスブックを通じて知り合いました。父と同じALSと戦っています。ぼくが4年生のときに家族みんなで佐賀まで会いに行きました。

玄三さんはここにこ笑って、ぼくたちを迎えて、足で、マウスを動かして「ようこそ、いらっしやい」とパソコンで話してくれました。玄三さんが、いつまでも口で食べられるように、咽頭分離手術をしたこと。その結果、声で話すことはできなくなりましたが、パソコンで意思を伝えることができること。しなやかに

病氣と共に生きている玄三さんの姿は、父に生きる勇氣を与えてくれました。こんな風に「生きる」すばらしさを教えてくれた玄三さんに感謝しています。

四旬節黙想会 レデンプトール会地区

日	時	会 場	黙想指導者	スケジュール
3月 5日(日)		出水教会	井上 武神父 (レデンプトール会)	9:00 講話
				10:00 ミサ、ゆるしの秘跡
3月 12日(日)		大口教会	井田 明神父 (レデンプトール会)	9:00 ミサ
				10:00 講話、ゆるしの秘跡
3月 18日(土)		谷山教会	井田 明神父 (レデンプトール会)	19:00 ミサ
				20:00 講話、ゆるしの秘跡
3月 19日(日)		谷山教会	井田 明神父 (レデンプトール会)	9:00 ミサ
				10:00 講話、ゆるしの秘跡
3月 19日(日)		川内教会	頭島 光神父 (レデンプトール会)	9:00~10:30 講話
				10:30 ミサ、ゆるしの秘跡

笑顔が大好きです。やはり、父は種子島がいののだと思います。

父に笑っていてもうために、ぼくにできることは、ぼくががんばっている姿を見せることだと思っています。今年の鹿児島少年相撲大会鹿屋場所では、準優勝して賞状とメダルをもらいました。兄は甲子園をめざしてがんばっています。姉は踊りをがんばっています。母は仕事をしながら父の病院へ通ったり、父を学校の行事にできるだけ参加できるように連れて出かけていたりしています。母の姉である叔母家族や、祖母も一生懸命協力してくれています。家族みんなです。ここ、種子島で男らしく生きている父は、ぼくのほこりです。がんばれ、お父さん。

病氣と共に生きている玄三さん、父に生きる勇氣を与えてくれました。こんな風に「生きる」すばらしさを教えてくれた玄三さんに感謝しています。

6月、父は鹿児島大学病院で胃ろうの手術を受けました。母がしばらく付き添いましたが、家族が離れていることや知り合いのいない大学病院だということもあって、父は笑顔を失くしてしまいました。このままではいけないと、母は予定よりも一週間早く父を種子島に連れて帰ってきました。種子島医療センターに転院して、だんだん笑顔が出るようになりました。毎日、家族と会ったり、友達がたずねてきてくれたりしたからです。種子島高校の野球部の兄の仲間たちが、病室に来てくれたとき、父はうれしそうに笑いました。久しぶりに笑顔の写真撮りました。ぼくは父の

